

低温物質科学研究センター専任教員・非常勤職員紹介

低温物質科学研究センターは、平成 14 年 4 月に専任教員 9 名(当誌第 2 号 P. 36 - 38 参照)の体制でスタートしましたが、その後原公彦教授の定年退官、光岡薫助教授の転任、4 名の専任教員・3 名の研究機関研究員・1 名の研究支援推進員の着任を経て、現在の体制に至っております。

以下に、平成 15, 16 年度に着任いたしました専任教員・非常勤職員の(1)氏名および職名、(2)専門分野、(3)研究ならびに職務に対する抱負を紹介させていただきます。



- (1) 澤田 安樹 教授
- (2) 低温物理学, 低温工学
- (3) 絶対零度に近い低温で、低次元伝導電子の示す特異な物理現象について研究しています。現在は量子ホール効果におけるマクロ・コヒーレンスに強い興味を持って実験を行っています。同時に寒剤供給の円滑なサービス業務に努め、寒剤を利用する研究の発展に貢献したいと思っております。



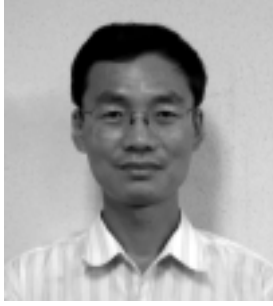
- (1) 矢持 秀起 教授
- (2) 有機物性化学
- (3) 有機分子を主たる研究対象とし、もの作り(物質開拓)を中心に、物性科学の進展に寄与したいと思います。



- (1) 伊藤 忠直 助教授
- (2) 生物物理学
- (3) 細胞質の力学場、浸透圧場としてのアクチン系細胞骨格を中心に、生体超分子構造体が見出す物理化学的性質とその機能の研究を行っています。



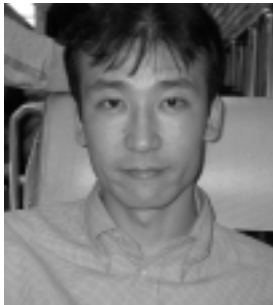
- (1) 新井 敏一 助手
- (2) 低温物理(実験)
- (3) ヘリウム液面に電子や原子をうかべて低次元系をつくり、これを冷却したときに姿を現す量子現象を研究しています。いつでも安定した寒剤供給ができるよう努力します。



- (1) 張 維 講師(研究機関研究員)
- (2) 無機物性化学
- (3) 新物質・新物性の探索・開発を目指して、3次元的な構造を有するバルク材料と薄膜合成手法を駆使して作製された2次元的なナノ構造を有する材料の設計・合成・構造解析・物性評価に関する研究を行いたいと思います。



- (1) 福田 昭 講師(研究機関研究員)
- (2) 低次元凝縮系物理学
- (3) 超低温における低次元量子凝縮系の物性(2層系量子ホール状態や2次元偏極原子状水素など)を、量子輸送現象測定やマイクロ波(ミリ波)分光法等により、研究する予定です。



- (1) 上野 智弘 講師(研究機関研究員)
- (2) 低温物理学
- (3) 学際的な研究センターに属している利点を生かし、従来の枠組みにとられない研究をしていけたらと考えています。



- (1) 西崎 修司 技術補佐員(研究支援推進員)
- (2) 極低温生成
- (3) 退官された西下助手の後を引き継ぎ、4月より当センターの寒剤供給の手伝いをしております。今までに蓄積されたノウハウに基づき、液体ヘリウム、液体窒素のより効率的で安全な安定供給が出来ればと考えています。未熟者ですが、今後とも宜しく御願ひ致します。

なお、事務補佐員として新たに上林美木が加わり、主として外部資金関連の事務を担当しています。

(以上、平成16年10月1日現在)